

# 須原鉄二と清水書店創業者葉多野太兵衛について（再訂稿）

—明治・大正期出版業史の一齣—

（令和 4（2022）年 8 月 10 日（水）現在）

## 〔目 次〕

（補正経緯）	1
【関係別稿】	1
1 はじめに	1
2 須原鉄二	2
3 清水書店創業者葉多野太兵衛	4
【附録】明治警察史コーナーHP 項目一覧（抄）	6
【関連事項】	7

（補正経緯）

平成 29（2017）年 3 月 25 日（土）初稿作成<sup>1</sup>

HP 初出: 平成 29（2017）年 10 月 12 日（木）改訂稿作成

令和 4（2022）年 8 月 10 日（水）再訂稿作成

（レイアウトを全面変更した上で一部補正追加した。）

## 【関係別稿】

- ・本 HP 別稿: 「内務省警視局御用御書物師須原鉄二とは誰ぞ—明治警察史の一齣—」  
(<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/subara.pdf>)
- ・本 HP 別稿: 「清水書店とは何ぞや—須原鉄二との関連で— 明治・大正警察史の一齣—」  
(<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/shimizushoten.pdf>)

## 1 はじめに

戦前期警察史探求の一環として以前『警察協会雑誌』<sup>2</sup>を検討した際に須原鉄二（畏三堂、(? ~?)）、博聞社（創業者 長尾景弼 (? ~1895)）、警眼社（創業者 田山宗堯 (1859~1917)）、清水書店（創業者 葉多野太兵衛 (1868~1926)）、松華堂書店（創業者 横尾留治 (1864~?)）、法制時報社（創業者 小池則之 (1883~1941)）等往時の法律関係出版社についても併せ初歩的調査をする機会を得た<sup>3</sup>。これらは、ある時期には警察関係書籍も含め我が国法律書出版に

<sup>1</sup> 「須原鉄二と清水書店創業者葉多野太兵衛について—明治・大正期出版業史の一齣—」『法史学研究会会報』第 20 号（平成 29 年 3 月 25 日刊）90~94 頁（【叢説】）(<https://ci.nii.ac.jp/naid/40021240226/>)（令和 4（2022）年 8 月 10 日追加）

<sup>2</sup> 全 529 号、明治 33（1900）年 6 月~昭和 23（1948）年 6 月刊。同誌については警察政策学会警察史研究部会・公益財団法人警察協会編『警察協会雑誌目次集—警察政策百年の論述—』（警察政策学会資料・別刷、警察政策学会・公益財団法人警察協会、平成 25 年 12 月刊）、廣瀬 權「「警察協会雑誌の謎」解明に向けた一歩」『警察学論集』第 67 卷第 8 号（平成 26 年 8 月 10 日刊）97~114 頁参照。なお、別に公益財団法人警察協会 HP に HP 用「目次集」がアップされている。（<http://www.keisatukyokai.or.jp/>）

<sup>3</sup> 一部ではあるが（<http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Historian2003.htm>）中の「法制史学者著作目録

それなりの地歩を占めた書店であるが、本稿ではそのうち須原鉄二及び最初同人の下で修業の後清水書店を創業した葉多野太兵衛について覚書風にその一端を紹介しておくこととする。

もとより戦前期の法律書、警察関係書出版業史については、本来ならば当該時期出版業史全体の中で検討すべきであるが、今回はまったく自己の興味あることだけに言及するにとどめざるを得なかったことをお断りしておく。

## 2 須原鉄二

須原鉄二は、畏三堂なる屋号を使用していることもあるが、「須原鉄二」の名で多くの書籍を刊行した明治前期の有力版元である。有名な須原屋の一統で本家の北島茂兵衛とは共同出版をかなりしている。なお、須原鉄二は当初は「長島鉄二」であった可能性が高い（後掲藤實久美子氏論説参照）。ちなみに、明治警察史関係の有名な著作である警視局編『警察集成』全 3 冊<sup>4</sup>（「警察集成序 大警視正五位川路利良撰」あり）の発兌欄には、

警視局御用書物師 東京西河岸町十貳番地須原鉄二他

と記され、田中耕造（1851～1883）纂訳『警察一斑』（警視局蔵版、明治 10 年 9 月 15 日刊）の発兌欄には、次のように見える。

警視局御用御書物師 東京西河岸町十貳番地 須原鉄二 東京日本橋通一丁目  
北島茂兵衛

また、川路利良（1834～1879）述、吉村増雄注釈『警察手眼注釈』（明治 12 年 7 月刊）の出版人として、

警視局御用書物師 須原鉄二 日本橋区西河岸町十二番地

と記されており、同書売弘書肆として、

日本橋区通壱丁目 北島茂兵衛、浅草区芽町貳丁目 北澤伊八

とある。

須原鉄二については、武鑑の研究で著名な藤實久美子氏の論考に「信州中野山田庄左衛門家と畏三堂須原鉄二と旧藩公債証書情報」<sup>5</sup>及び「畏三堂須原鉄二と「北信濃の文人」山田家」<sup>6</sup>があって詳しい。うち後者の内容は、「はじめに 1.江戸との複数のパイプ 2.須原鉄二について 3.本屋としての須原鉄二 4.書画骨董商としての須原鉄二 5.新・旧公債証書をめぐる情報 課題と展望—おわりにかえて—」であるが、須原鉄二の主要なことはこれでほぼ判明する。

ただ、このように明治初めから同十年代には大きな活躍をした須原鉄二についてはその後のことが不明であったが、例えば「ヨミダス歴史館」及び「聞蔵Ⅱビジュアル」中に明治 20（1887）年以降の須原鉄二に関する興味深い『読売新聞』、『朝日新聞』広告記事等がある。これを見ると、当時の競合他社である博聞社と何らかの揉め事があったこと等が判明し、その後の須原鉄二検討の参考になるものと思われる。

---

選（WEB版）」（⇒「明治警察史コーナー」）参照。

<sup>4</sup> 警視局蔵版。第 1 冊は明治 10 年 9 月 15 日出版版権届、明治 10 年 9 月刊、第 2 冊は明治 10 年 9 月 15 日出版版権届、明治 12 年 7 月刊、第 3 冊は 明治 13 年 5 月 13 日出版版権届、明治 13 年 3（マ）月刊である。

<sup>5</sup> 『近世・近代の地主経営と地域社会文化論—地域アーカイブズの総合的調査研究を通して—（研究成果中間報告書）』（人間文化研究機構 国文学研究資料館、平成 19（2007）年 3 月 30 日刊）所収。

<sup>6</sup> 国文学研究資料館編『近世・近代の地主経営と社会文化環境—地域名望家アーカイブズの研究—』（名著出版、平成 20 年 12 月 10 日刊）所収。

明治前期の大出版社であった博聞社も警察関係の多数の書籍を刊行している。有名なものとして、ヘーン（1839～1892）著、湯目補隆（1858～1936）等訳『警察講義録』<sup>7</sup>がある。同社については、既に稲岡勝氏に「長尾景弼・股野兄弟と博聞社」という論考<sup>8</sup>があり、加えて、同氏は当時平成 18（2006）年 4 月 21 日に日本出版学会歴史部会で「長尾景弼と博聞社—創業期を中心に」を報告されているとのことである<sup>9</sup>。

上記「長尾景弼・股野兄弟と博聞社」には、須原鉄二に関して次の記述が見られる（22 頁）。

この間、警視庁御用書肆として法律書など類似の出版を競った須原鉄二が破産し、その財産を買収して業務の拡充もはかっている。

今般当社於テ日本橋西河岸須原鉄二所有ノ家屋並ニ版權書籍共一切買受ケ且同家ニテ従来取扱ヒタル警視庁御蔵版ノ専売モ併テ引受ケタルニ付倍々勉励シ以テ社業ヲ拡張セントス依テ売切レノ書籍ハ之ヲ増刷シ更ニ低価ヲ以テ発売ス伏テ倍旧ノ御愛顧ヲ乞フ

（『時事新報』明治廿一年三月六日 六面）

この記事の後に買受けた四十点近い書目が並んでいるが、中に馬琴〔滝沢馬琴: 1764～1848〕『羈旅漫録』三冊、『四書京伝余師』〔山東京伝: 1761～1816〕の二冊があるのが面白い。

ここに引用された『時事新報』の記事は、下記『読売新聞』明治 21（1888）年 3 月 8 日（木）、同 3 月 13 日（火）朝刊掲載の須原鉄二関係記事の端緒となったものと思われ、須原鉄二の破産云々はともかくとして、この時期に同人が大きな打撃を被っていたことが知られる。今後は、このあたりから須原鉄二の後半生を探求していく必要があるかと思われる。

『読売新聞』明治 21 年 3 月 8 日朝刊 4/4 頁及び明治 21 年 3 月 13 日朝刊 4/4 頁（／は記事の改行個所を示す、以下同じ）。

#### 広告

今般示談の上博聞社へ／弊店蔵版の書籍譲渡し候/処同社に於て弊店廃業の様  
広告有之候得共決して／廃業は不仕左の処へ移住仕営業罷在候且警視庁御／  
用書林は依然として従前/の通りに有之候間江湖の／読者倍旧の愛顧を垂れ賜/  
はんことを此に広告候也

東京日本橋区西河岸町十七番地

警視庁 御用書林 須原鉄二

ちなみに、その後、博聞社は、『読売新聞』明治 25（1892）年 9 月 1 日（木）朝刊 2/4 頁に  
抛れば「博聞社差し押さえ事件和解」の記事があり、今度はその頃の同社の苦境も窺える。

明治 21（1888）年秋には、須原鉄二については出版広告でなく、下記「古本・古代絵画買入」  
広告が出ている。以下では併せその後の記事をも掲げておく。

・『読売新聞』明治 21 年 11 月 28 日（水）朝刊 4/4 頁広告欄には、次の記事が見られる。

#### 古本買入

並古代絵画買入 何書を不問御不用御私／之節は遠路多少とも御/報次第直  
に参館精々高／価に御引受可申候間陸／続御申込伏て奉願上候 日本橋区

<sup>7</sup> 警官練習所蔵版、博聞社、明治 19（1886）年 6 月刊（平成 19（2007）年 6 月に信山社より復刻版刊）。

<sup>8</sup> 『都留文科大学研究紀要』第 63 集（平成 18 年 3 月 20 日刊）（1）～（25）頁。

<sup>9</sup> 日本出版学会 HP（<http://www.shuppan.jp/bukai11/67---2006421.html>）参照。

本石町一丁目廿五番地 須原鉄二

- ・『東京朝日新聞』明治 22 (1889) 年 3 月 13 日朝刊 3 頁には、「畏三堂 須原」での記載あり。
- ・『東京朝日新聞』明治 22 年 6 月 19 日 (水) 朝刊 4 頁 (同 20 日、同 21 日も同じ) には、「畏三堂 須原」(日本橋区本石町一丁目)での記載あり。

更に、明治 26 (1893) 年春には下記のような「書画会」の広告が出ている。

- ・『東京朝日新聞』明治 26 年 4 月 14 日 (金) 朝刊 3 頁 6 段広告欄には、次の記事が見られる。

鉄二の書画会 書肆にて知られし畏三堂須原/鉄二には来る十五十六の両日

浅草須賀町の欧遊館に／於て催し当日は有名家の出席ある由

これらからすると、須原鉄二は明治二十年代年初め頃には出版社の経営はかなりの苦境に追い込まれており、その後は出版を罷め、古書とか書画の売買をしていたのではないかと思われる。いずれにせよ、同人のその後の動静は現時点では残念ながら不明である。ある時期須原鉄二と相競った博聞社もまたしかりであって、同社経営再建中の明治 28 (1895) 年 2 月 6 日に長尾景弼は死去する。このあたりから明治期の法律関係出版社にも大きな世代交代が見られるところであるといえよう。

### 3 清水書店創業者葉多野太兵衛

清水書店(所在地: 神田区今川小路 2 丁目 47 番)は明治中期に創業し、明治末期から大正期には一流の法律書出版社になっていた<sup>10</sup>。大正 12 (1923) 年 9 月 1 日発生に関東大震災では大きな被害を受けたが、震災後は経済商工書分野にも更に進出しようとしていた。しかるに、大正 15 (1926) 年 6 月 26 日に創業者の初代葉多野太兵衛(1868~1926)が逝去したこともあってか、その後社業を完全に回復できず、昭和十年代後半からは法律書の出版も少なくなり、おそらく昭和二十年代前半には廃業したものである。なお、先年幸いにも同書店及び創業家の内輪のこと等につきさる同書店関係者御後裔の方より種々貴重なお教えを受ける機会を得た。同氏に厚く御礼申し上げるものである。

清水書店に関して、東京書籍商組合編『東京書籍商伝記集覧 日本書誌学大系 2』<sup>11</sup>は、創業者葉多野太兵衛が明治十年代に須原鉄二の店に奉公していたことを誌している。葉多野太兵衛は、元は清水太兵衛といい、明治三十年頃何か事情あって、「葉多野太兵衛(初代)」に改姓している人物である。ちなみに、国立国会図書館デジタルコレクション(<http://www.ndl.go.jp/>)によると、『芝居茶話』という書物は次のような奥書を持つ。

編集人須原畏三(日本橋区西河岸町拾貳番地区)、出版人清水太兵衛(同区同町同番地須原鉄二方寄留)、明治 20 年 7 月 18 日出版御届

この「清水太兵衛」は、おそらく「葉多野太兵衛」のことと思われるが、年代からして、葉多野太兵衛が須原鉄二の店の奉公時に主人とともに刊行したものかと推測される。

葉多野太兵衛については、(二代)葉多野太兵衛(本名: 巖)編『追悼録』(清水書店、昭和 3 年 11 月 8 日刊)があつて多くを知り得るが、初代葉多野太兵衛が日本橋の須原屋(マ)で修

<sup>10</sup> 例えば、小川菊松(1888~1962)『出版興亡五十年』(誠光堂新光社、昭和 28 年 8 月 5 日刊。復刻版: 平成 4 年 11 月刊) 154、155 頁参照。

<sup>11</sup> 青裳堂書店、昭和 53 年 4 月 30 日刊。(東京書籍商組合編『東京書籍商組合史及組合員概歴』(大正元年 11 月刊)の影印版) 208 頁。

業したことについては、口絵墓碑銘写真および同書 7、11、21、23、44、85 頁に記載されている。ただ、残念なことに須原鉄二その人に言及した記述はない。上記墓碑銘によれば、葉多野太兵衛の雅号は「畏三」というが、これはおそらく須原鉄二が使用していた「畏三」とか同店屋号の「畏三堂」に由来するものかと思われる。

同書店の創業は、上記『東京書籍商伝記集覧』に、葉多野太兵衛は「都下須原屋書林〈ママ〉に入り、師弟となり」とあり、また、

明治 22 年 2 月我国立憲節の日をトし、君〔太兵衛〕も亦独立して清水書店と号し、当時の今川小路に居を定め専ら法律経済の書目の出版及販賣の業を創めたり

とあるように（同書 11～12 頁）、明治 22（1889）年 2 月である。この頃から、須原鉄二や博聞社に替わって、有斐閣（最初有史閣として明治 10（1877）年創業）や清水書店等の活躍が始まることとなる。清水書店の廃業年月については詳細不明であるが、例えば、国立国会図書館蔵書検索や CiNii 等で見える限りでは、昭和 23 年発行分が最後であるので、それ以降の時期と思われる。ちなみに、HP「奥付検印紙日録」（2007.10-01）  
<<http://d.hatena.ne.jp/spin-edition/200710>>には、

山崎宏編著 東洋史上の古代日本、昭和 23 年 3 月 5 日刊、東京都千代田区神田神保町三丁目十三番地、合資会社 清水書店、発行者 代表社員 葉多野太兵衛の紹介がある。

この他、葉多野太兵衛について記載したものに言及すると、例えば下記があげられる。

- ・反町茂雄（1901～1991）編『紙魚の昔がたり 明治大正篇』（八木書店、平成 2 年 1 月 30 日刊）129 頁<sup>12</sup>

深沢良太郎氏（? ～1950、81 歳）との対談が掲載されており、清水太兵衛（葉多野太兵衛）及び清水書店についての記載がある（211～213 頁）。

- ・『東京古書組合五十年史』（発行者：井上周一郎、発行所：東京都古書籍商業協同組合、昭和 49 年 12 月 15 日刊）

せどり界の雄であった塚富（塚本富三郎）のことを、葉多野太兵衛の同僚として「西河岸須鉄の出身」と記載している（28、34 頁）。同氏もまた須原鉄二の店から出た人物として記憶すべき方であろう。

- ・鈴木徹造（1920～?）『出版人物辞典 明治～平成 物故出版人』（出版ニュース社、平成 8 年 10 月 30 日刊）241 頁
- ・稲岡勝監修『出版文化人物事典—江戸から近現代・出版人 1600 人』（日外アソシエーツ KK、平成 25 年 6 月 25 日刊）316 頁

---

<sup>12</sup> 同書は、『紙魚の昔がたり』（訪書会、昭和 9 年 10 月 25 日刊。再版：臨川書店、昭和 53 年 10 月 25 日刊）を改編したものである。

【附録】明治警察史コーナーHP 項目一覧（抄）（令和 4（2022）年 8 月 10 日追加）

- ・「法制史学者著作目録選」中「明治警察史コーナー」  
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Historian2003.htm>〉
- ・「松井茂久『警官陶冶篇』研究史抄—本 HP 収載「PDF 版松井茂久『警官陶冶篇』」検討資料」  
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/matsui002.pdf>〉
- ・「PDF 版松井茂久『警官陶冶篇』（増訂三版、明治 25（1892）年 2 月 18 日刊）」  
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/matsui001.pdf>〉
- ・「大森鍾一『直興遺篋抄』—「長男仕官に就き与へたる訓戒の書」—」  
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/omori001.pdf>〉
- ・「川路大警視青山墓前の頌徳碑検討一斑（碑文全文、付句読点文、書下し文）—故陸軍少将兼大警視正五位勲二等川路君墓表編修副長官従五位重野安禔撰— 一明治警察史の一齣—」  
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kawaji002.pdf>〉
- ・「佐和正関係文献抄—明治警察史の一齣—」  
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/sawatadashi.pdf>〉
- ・「坂元純熙、國分友諒両氏の墓所について—中原英典氏のお問いかけを追って—」  
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/sakamoto001.pdf>〉
- ・「国分友諒顕彰碑について—原田弘先生のお教えに接して—」  
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kokubukenshoji.pdf>〉
- ・「篠崎五郎関係資料抄—台湾出兵時の徴集隊指揮副長の一人— 一明治警察史の一齣—」  
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/shinozaki.pdf>〉
- ・「後藤松吉郎とは誰ぞ—明治警察史・日本統治下台湾警察史の一齣—」  
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/goto001.pdf>〉
- ・「裁判医学校乃至警視医学校関係文献一斑—明治警察史の一齣—」  
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/saiban001.pdf>〉
- ・「『無冤録述』検討一斑—江戸期及び明治警察史の一齣—」  
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/muenrokujutsu.pdf>〉
- ・「続・『無冤録述』の初歩的検討—江戸期及び明治警察史の一齣—」  
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/muenrokujutsuzoku.pdf>〉
- ・「ヘーン大尉関係文献抄（再訂稿）」  
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/hoen001.pdf>〉
- ・「明治中葉警官練習所訳官久松定弘等及び筆記者井土経重（靈山）検討一斑—明治警察史の一齣—」  
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/yakkan.pdf>〉
- ・「岩瀬忠震関係文献抄（六訂稿）—向島・ヘーン大尉表功碑探訪余聞—」  
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/iwase001.pdf>〉
- ・「内務省警視局御用御書物師須原鉄二とは誰ぞ—明治警察史の一齣—」  
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/subara.pdf>〉
- ・「清水書店とは何ぞや—須原鉄二との関連で—明治・大正警察史の一齣—」  
〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/shimizushoten.pdf>〉

- ・「須原鉄二と清水書店創業者葉多野太兵衛について—明治・大正期出版業史の一齣—」（本稿）

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/hatano001.pdf>〉

- ・「警察監獄学会及び『警察監獄学会雑誌』検討一斑—明治警察史の一齣—」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kangokugakkai.pdf>〉

- ・「高橋雄豹博士著作目録（再訂稿）」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/takahashi001.pdf>〉

- ・「田村豊氏著作目録」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/tamura001.pdf>〉

- ・「中原英典氏明治警察史研究関係著作目録抄（参考）渡辺忠威氏警察史関係文献抄」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/nakahara001.pdf>〉

\*\*\*\*\*

【関連事項】（令和4年8月10日追加）

- ・法制史学会: 〈<https://www.jalha.org/>〉
- ・国立国会図書館: 〈<https://www.ndl.go.jp/>〉
- ・国立国会図書館デジタルコレクション 〈<https://dl.ndl.go.jp/>〉
- ・国立国会図書館個人向けデジタル化資料送信サービス（個人送信）（令和4（2022）年5月19日開始）  
〈[https://www.ndl.go.jp/jp/use/digital\\_transmission/individuals\\_index.html](https://www.ndl.go.jp/jp/use/digital_transmission/individuals_index.html)〉
- ・国立国会図書館次世代デジタルライブラリー（令和4（2022）年4月1日追加）  
〈<https://lab.ndl.go.jp/service/tsugidigi/>〉
- ・CiNii: 〈<https://ci.nii.ac.jp/>〉 ⇒ 〈<https://cir.nii.ac.jp/>〉（【[2022] 4/18 更新】CiNii ArticlesのCiNii Researchへの統合について）、〈<https://ci.nii.ac.jp/books/>〉

（了）